

CSV 自動マッピング

1. 概要	2
1-1. CSV 自動マッピングとは	2
1-2. オブジェクト種別ごとの CSV 自動マッピング	4
2. CSV 自動マッピング 方法	6
1. 準備	6
2. 自動マッピング	6
3. CSV 自動マッピング詳細設定項目	10
4. マッピング用 CSV ファイルフォーマット	11
5. ヘッダーマッピング指定時の自動マッピングについて	12
6. 制限事項	13

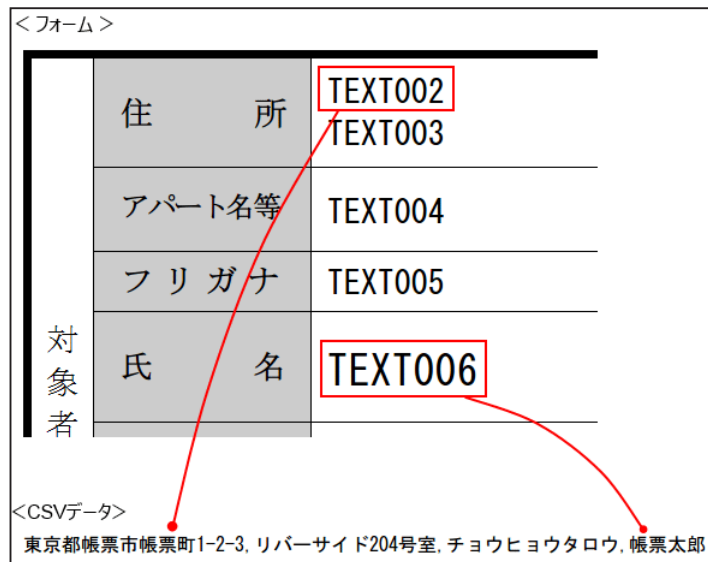
1. 概要

CSV マッピングには、Datamap エディターによるマッピングと、CSV 自動マッピングがあります。Datamap エディターによるマッピングは複雑なマッピングを行えますが、一般的な CSV のマッピングの場合は CSV 自動マッピングが便利です。

1-1. CSV 自動マッピングとは

マッピングとは、帳票の動的に変化する部分とデータを関連付ける作業です。この作業のために、フォーム上では動的に変化する部分を変数として定義し「変数名」をつけます。

図：変数とデータの関連付け



たとえば上の図では、

変数：TEXT002 に CSV データの 1 行目 1 項目

変数：TEXT006 に CSV データの 1 行目 4 項目

にマッピングを行うと、実際の帳票では

変数：TEXT002 に「東京都帳票市帳票町 1-2-3」

変数：TEXT006 に「帳票太郎」

が出力されます。

マッピング作業は帳票資源ファイル生成時に行い、方法としては

(1) Datamap エディターによるマッピング

(2) CSV 自動マッピング

があります。

CSV 自動マッピングはマッピング用の CSV ファイルを予め準備してから行います。

マッピング用の CSV ファイルとは、マッピング位置にフォーム上に定義された変数名を出力した CSV ファイルです。（フォームに定義された変数の一覧を出力したマッピング用の CSV ファイルを作成する機能もあります。詳しくは後述の「CSV 自動マッピング方法」をご覧ください。）

帳票レイアウトが定義された帳票資源ファイルにマッピング用の CSV ファイルを使い CSV 自動マッピング機能を実行するとマッピング作業が完了します。

図：変数マッピング

<フォーム>

対象者	住 所	TEXT002 TEXT003
	アパート名等	TEXT004
	フリガナ	TEXT005
	氏 名	TEXT006

<CSVデータ>
TEXT002, TEXT004, TEXT005, TEXT006

マッピングの位置は、CSV ファイル内で変数名が指定されている場所になります。

上の図では

変数：TEXT002 に CSV データの 1 行目 1 項目

変数：TEXT006 に CSV データの 1 行目 4 項目

にマッピングが行われます。

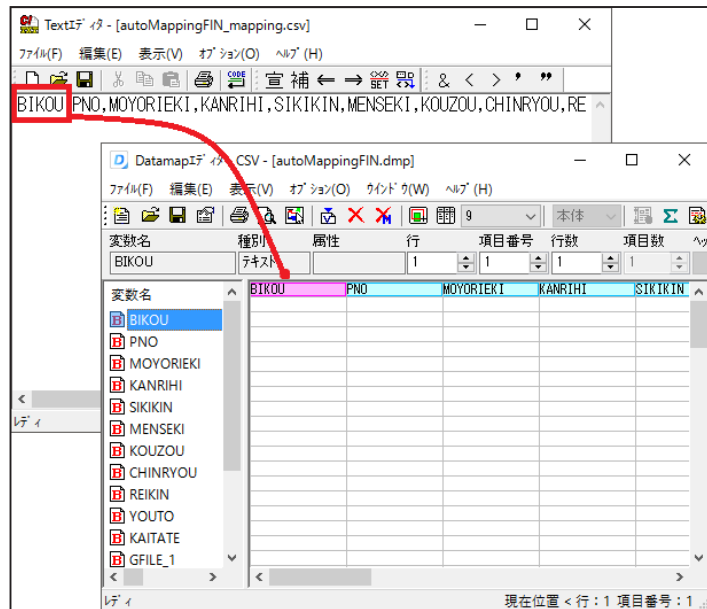
図：データマップエディター

1-2. オブジェクト種別ごとの CSV 自動マッピング

一般（表・グラフ変数以外）のオブジェクト

マッピング用の CSV ファイルに変数名または変数の記述を指定します。マッピングの位置は、マッピング用 CSV ファイル上で変数名または変数の記述が指定されている場所になります。

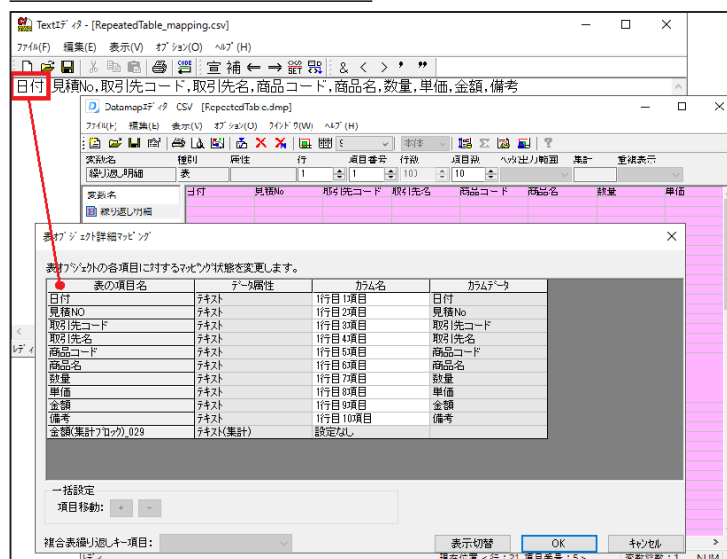
図：一般オブジェクトの自動マッピング



表オブジェクト

マッピング用の CSV ファイルに表のセル名を指定します。マッピングの位置は、マッピング用 CSV ファイル上でセル名が指定されている場所になります。

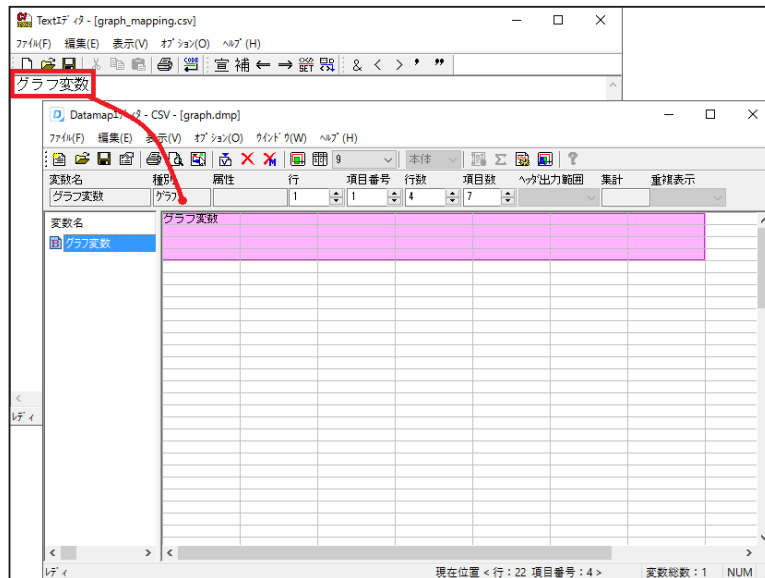
図：表オブジェクトの自動マッピング



グラフ変数オブジェクト

マッピング用の CSV ファイルに変数名または変数の記述を指定します。マッピングの位置はマッピング用 CSV ファイル上で変数名または変数の記述が指定されている CSV カラムを基準としてマッピングを行います。グラフ変数についてはグラフ種別にあわせて常に固定のマッピング範囲でマッピングされますので、自動マッピング後にデータマップエディターで実際のデータフォーマットにあわせて再マッピングしてください。

図：グラフオブジェクトの自動マッピング



※ ヘッダーマッピングが指定されている場合はマッピングされる位置が異なります。詳細は、後述の「ヘッダーマッピング指定時の自動マッピングについて」を参照してください。

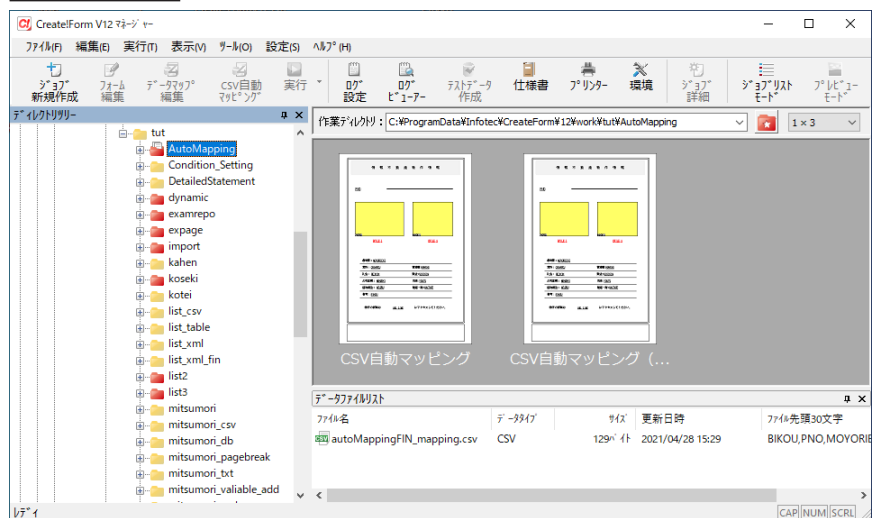
2. CSV 自動マッピング 方法

CSV 自動マッピングの操作方法を説明します。

1. 準備

ジョブファイルとフォームファイルの作成は、通常通りに行います。ここでは、ジョブファイルとフォームファイルの作成が完了した帳票資源ファイルが“帳票資源フォルダー ¥tut¥AutoMapping”に用意されていますので、このファイルを使用して説明します。帳票資源フォルダーはマネージャーの[ヘルプ]-[バージョン情報]-[バージョン情報詳細]で確認できます。

図：マネージャー



◆◆操作◆◆

マネージャーを起動します。画面左のフォルダーツリーから

“帳票資源フォルダー ¥tut¥AutoMapping”

を選択します。帳票一覧より、「CSV 自動マッピング」を選択し、ダブルクリックで Form エディターを開き内容を確認後、Form エディターを閉じます。

2. 自動マッピング

自動マッピングは、マネージャーの[自動マッピング]ダイアログより行います。

◆◆操作◆◆

ツールボタンより[CSV 自動マッピング]をクリックします。

自動マッピングダイアログが表示されました。

今回はマッピング用の CSV ファイルを作成してから自動マッピングを行います。

まず、マッピング用のフォームファイルと、データマップファイルを選択します。

(なお、複合表を含む帳票の場合は、フォームファイル名とともに表名を選択し、表毎にデータマップファイルを作成します。)

図： CSV 自動マッピング

◆◆操作◆◆

[CSV 自動マッピング] ダイアログで

[フォームファイル] autoMapping.fmd

[データマップファイル] autoMapping.dmp

を選択します。

[CSV 自動マッピングに使用する CSV ファイル] の [新規作成] ボタンをクリックします。

図： CSV 自動マッピング -CSV ファイル新規作成 -

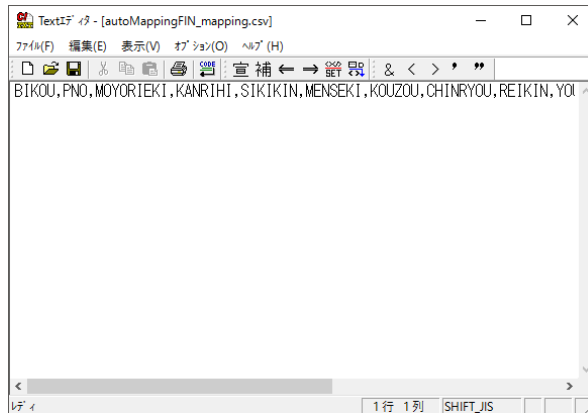
◆◆操作◆◆

[CSV 自動マッピング -CSV ファイル新規作成 -] ダイアログで

autoMapping_mapping.csv

と指定し、[作成] ボタンをクリックします。

図：マッピング用 CSV ファイル内容の確認

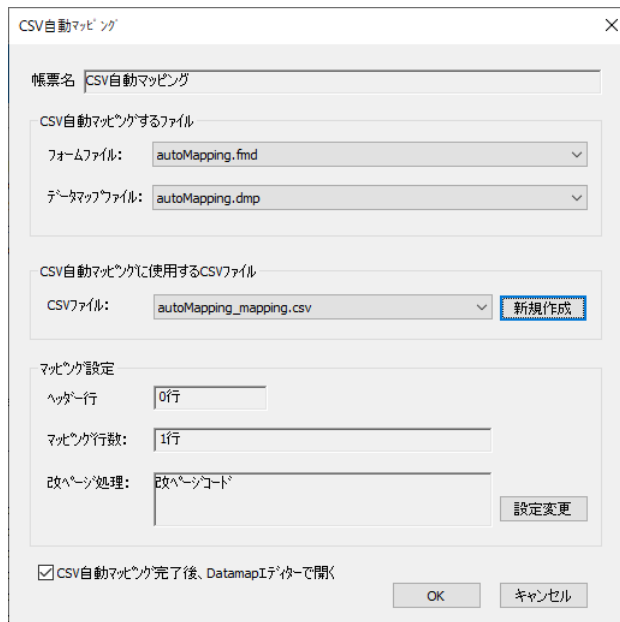


マッピング用の CSV ファイルが作業ディレクトリに指定した名前で作成されます。テキストエディターが起動し、作成後の CSV ファイルが開かれます。 CSV ファイルには Form エディターで定義された変数が、「1 変数 1 カラム」で 1 行目に Form エディターでの定義順に記載されています。

変数名の並び順の変更が必要な場合はここで並び替えます。

ここまでで、マッピング用の CSV ファイルの準備が終わりました。ここからは、自動マッピングによりデータマップファイルを作成します。 自動マッピングダイアログに戻ります。

図：CSV 自動マッピング

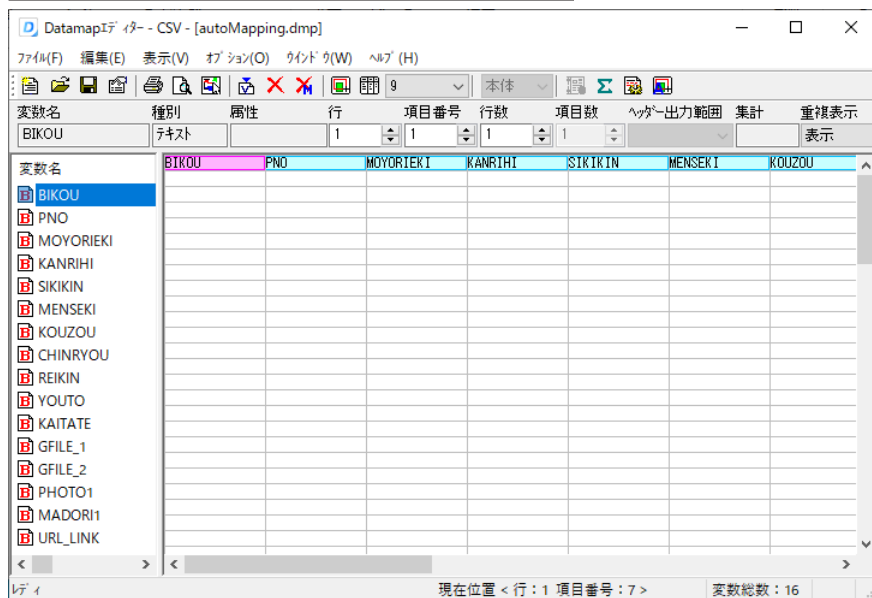


◆◆操作◆◆

[CSV 自動マッピングに使用する CSV ファイル] に、先ほど作成した CSV ファイルが指定されていることを確認します。[OK] ボタンをクリックします。

マッピングが完了したデータマップファイルが自動で開かれます。マッピング内容を確認してください。 CSV ファイル上に記載された変数名の位置に、テキスト変数がマッピングされていることが確認できます。

図：自動マッピングの出力確認（データマップエディター）



以上でデータマップファイルの完成です。

3. CSV 自動マッピング詳細設定項目

CSV 自動マッピングを実行する際に指定できる詳細設定項目です。

この設定は、データマップファイル作成後に、データマップエディターの [データマップ設定] で再設定することができます。

図：CSV 自動マッピング詳細設定

[ヘッダー行数（ヘッダーマッピング行数）]

ヘッダーマッピング機能で使用するヘッダーマッピング行数（0-999 行）を指定します。

[マッピング行数]

変数オブジェクトに対してマッピングされる行数（1-999 行）です。

リンク変数、PDF 変数、グラフ変数、表は、常に 1 行になります。

[テキスト変数は Form エディターで配置した領域の高さから算出した行数を使用]

Form エディターで定義されたテキスト変数の高さから自動マッピング行数を計算してマッピングを行います。行数は Form エディターで定義された領域の高さと行間隔から算出されます。テキスト変数に [リスト形式データの出力] が設定されているときは 1 行でマッピングされます。

[改ページ処理]

改ページ処理の方法を指定します。改ページについては、別項をご覧ください。

[改ページコード (FF コード :0Ch) で改ページ]

改ページコードでの改ページを行います。この設定は常に有効で無効にすることはできません。

[行数で改ページ]

行数で改ページを行います。ヘッダー行数・マッピング行数より大きい値である必要があります。行数は 1-999 行で指定します。

[改ページ文字で改ページ]

改ページ文字で改ページを行います。改ページ文字は、半角英数・半角記号（アスキーコード 0x21-0x7F）10 文字以内となります。

4. マッピング用 CSV ファイルフォーマット

マッピング用 CSV ファイルは、CSV 自動マッピング機能で使用するファイルです。Form ファイルで定義された変数名を CSV 形式で出力します。自動マッピング機能では、変数名が出力されたカラムをデータ位置（マッピング対象位置）の基準として、変数オブジェクトのマッピングを行います。

マッピング用 CSV ファイルの自動生成機能を使用しないでマッピング用 CSV ファイルを作成する場合は以下のフォーマットで CSV ファイルを作成してください。

ファイル拡張子 : csv

変数名記載方法 :

表以外のオブジェクト : 変数名を指定

表オブジェクト : セル名を指定

変数名 指定位置 : 1-999 行、1-9999 列 内の CSV カラム

CSV 区切り文字 : , (カンマ)

CSV 制御文字 : " (ダブルコーテーション)

CSV 行数 : 1 ~ 999

CSV 列数 : 1 ~ 9999

文字コード : SJIS

注意点

- ・変数名にカンマが含まれる場合はダブルコーテーションでそのカラムを括ってください。
- ・変数名にダブルコーテーションが含まれる場合は、ダブルコーテーションを2つ重ねた上で、そのカラムをダブルコーテーションで括ってください。
- ・表オブジェクトは、1つの CSV ファイルに複数の表のデータをマッピングすることはできません。表ごとに1つの CSV ファイルを作成します。
- ・1つの CSV ファイル内で、同名の変数・セル名を複数指定することはできません。

5. ヘッダーマッピング指定時の自動マッピングについて

帳票出力に使用する CSV ファイルにデータ項目を表すヘッダー行が出力されている場合、ヘッダー行数を指定したマッピングを行います。ヘッダー行数の指定は、自動マッピングの詳細設定項目から行いますが、ヘッダー行数が設定されている場合はマッピング対象位置（CSV カラムのデータ位置）はヘッダー行数で指定された行の最下行のみになり、マッピングはマッピング対象位置の次の行（ヘッダー行の次の行）になります。

たとえば、ヘッダー行数 3 行のマッピング用 CSV ファイルを用意し、ヘッダー行数を 3 行の設定でマッピングを行った場合、3 行目に出力された変数のみマッピング対象となり、実際のマッピングはヘッダーの次の行にマッピングされます。

組織一覧表 組織名 氏名, フリガナ, 住所, 電話番号, E-Mail,	組織一覧表 組織名 氏名	フリガナ	住所	電話番号	E-Mail
マッピング用CSVファイル					データマップファイル



6. 制限事項

以下の場合、CSV 自動マッピングは実行することができません。

- ・対象のデータマップファイル（CSV 形式もしくは未定義のデータマップファイル）が無い
- ・表オブジェクトが定義されており、かつ TXT もしくは DB 形式のデータマップファイルが混在している
- ・繰り返し帳票のキーを設定されているデータマップファイルに対して、再度自動マッピングした結果、キー項目の値が不正になる場合は繰り返し帳票のキーは解除されます。（設定されているキー項目の列数より、新規にマッピングするマッピング用 CSV の列数が少ない場合）

Create!Form 12

CSV 自動マッピング 第2版

発行日	2024年8月
発行者	インフォテック株式会社